



| Data |
|--|
| 監督・脚本：トム・フーパー |
| 作曲：アンドリュー・ロイド＝ウェバー |
| 出演：ジェニファー・ハドソン/テイラー・スウィフト/フランチェスカ・ヘイワード/ジュディ・デンチ/イアン・マックケラン/ジェームズ・コーデン/イドリス・エルバ/レベール・ウィルソン/ジェイソン・デルーロ/ロビー・フェアチャイルド |

■■■ショートコメント■■■

◆私は高校時代に『ウエストサイド物語』を観た時からミュージカルが大好きになった。とりわけ、オスカー・ハマースタイン2世とリチャード・ロジャースによる作品は大好きだった。『南太平洋』のレコードも購入していた。そして、高3の時に『サウンド・オブ・ミュージック』を観た時からジュリー・アンドリュースに夢中になり、『メリー・ポピンズ』等も次々と。

◆そんな私だから、劇団四季も大好き。弁護士登録した後も、忙しい時間をやりくりしながら『CATS』（『シネマ2』239頁）、『オペラ座の怪人』（『シネマ2』241頁）、『レ・ミゼラブル』、『ライオン・キング』等々の話題作はすべて鑑賞してきた。そのうえ、『レ・ミゼラブル』（12年）（『シネマ30』48頁）のように、近時は素晴らしいミュージカルが映画館でも上映されるようになったから、実にいい時代になっている。そんな中で映画化された『CATS』は当然素晴らしいはず。こりゃ必見！予告編を何度も見た私は、当然そう思っていたが・・・。

◆しかし、本作は英米などで批評家らに酷評され、興行成績も振るわないらしい。そのことを2020年1月19日付朝日新聞朝刊「文化・文芸」は詳しく報じているので、これは必読！

また、ネット上の批評でも、「映画化された『キャッツ』はネット民の予想通りに“微妙な作品”だった」（『WIRED』映画レビュー）をはじめ、不評なものが多い。①ミュージカル版よりはるかに長い苦行の時間、②伝わらないミュージカル版の魅力、③試写会で起きた乾いた笑い、④テクノロジーの活用が裏目に、⑤子どもがミュージカルを好きになる？等。その見出しも辛辣だ。予告編を見た時から私も少し不安な気がしていたが、案の定・・・。

◆『サウンド・オブ・ミュージック』では「ドレミの歌」と「エーデルワイス」、『ウエス

ト・サイド・ストーリー』では「トゥナイト」、そして『キャッツ』では「メモリー」が代表曲。しかして、『CATS』では、唯一人（一匹）天上に昇ることができる猫に選ばれるグリザベラ（ジェニファー・ハドソン）が歌い上げる「メモリー」が最大の「聴き所」だが、本作のそれが最高の「見せ所」になっているかどうかはかなり疑問。私がはじめて「劇団四季」のミュージカル『CATS』を見た時の感動と興奮が本作で得られなかったのは現実だから、仕方がない。それは大いに残念だが・・・。

2020（令和2）年1月29日記